2—645

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正三年四月十五日發行（毎月一回十五日發行）

廓清

第四卷第四號

廓清會本部發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會員諸君に望む

吾人は、吾徒の主義主張を傳へ、輿論の勢力を作らんが爲め、毎號本誌を普く天下に頒布せん事を欲す。然れどもそは元より本會財政の許すところにあらず、これ常に吾人の遺憾とする所なり。於玆吾人は、幸に本會の趣旨を贊し、吾人と共に此一大人道問題解決の爲に貢獻せられむとする諸君に對し毎號諸君の讀み了られたるものを以て知人より知人へ轉送回覽せしめられむ事を願はんとす。蓋し如斯にして一冊の本誌を數冊と同一の效力を生ぜしめ幾十萬人の前に吾徒の主張を陳述するの効果あらしむる事は、豈簡單にして而も有効なる運動法の一たるなからんや。冀くば我徒の微衷を諒とし協力一致、輿論喚起勢力振作の一助として諸君の實行を望むや切也

東京市神田區美土代町三丁目三番地

廓清會本部

出版書目

歐洲諸國 **醜業公認制度廢止運動**

定價一冊 拾五錢 郵稅貳錢

右は先般本邦に來援せられたるモーリスグレゴリー氏の著書を翻譯せしものにして、安部磯雄氏の嚴密なる校閲を經たるものなり。自己の研鑽の爲め將又主張貫徹の爲め、最も有力なる武器なり。擧つて購讀あらんことを望む。

伯爵 大隈重信述

廓清叢書第一卷 **公娼廢止論**

廓清會理事 益富政助述

廓清叢書第二卷 **此罹災者を救へ**

救世軍大佐 山室軍平述

廓清叢書第三卷 **道樂者への強異見**（品切）

救世軍大佐 山室軍平述

廓清叢書第四卷 **自由廢業を奬勵する理由**（品切）

廓清會長 島田三郎述

廓清叢書第五卷 **廓清會組織の趣意**

廓清會副會長 安部磯雄述

廓清叢書第四卷 **公娼制度と社會の風儀**

定價一冊各貳錢 郵稅六冊迄貳錢

會費の納入と振替貯金口座の新設

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等の方法の外、益富政助氏所有の振替口座を利用し居たるが、斯くては双互の不便不尠に付、今般左の通り本會名義にて振替貯金に加入したれば、以後はすべて本口座により拂込相成り度し

振替東京二一七〇七二番

東京市神田區美土代町三ノ三

廓清會本部

電話本局四九四〇番

大正三年四月十四日納本 一部定價金六錢
大正三年四月十五日發行 （毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人 伊藤秀吉
神田區三河町一丁目十四番地
印刷人 小林照雄
神田區三河町一丁目十四番地
印刷所 丸利印刷所
神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所 廓清發行所

THE PURITY 廓清

第四卷第四號（四月）

目次

□奉　贖……
□嗚呼皇太后の宮……
□廓清時言……伊藤　江南
□大正博覽會に藝妓の演藝を禁ずるの請願……
□教育上より觀たる大正博覽會論…三輪田元道
□博覽會と藝妓問題
△經濟界の攪亂者……小林丑三郎
△恥を知らぬ日本人……安藤　太郎
△リンコルンなきか……高崎　介藏
△藝妓は何故必要か……宮田　修
△藝妓の寫眞と優等生の寫眞…堤　茂太郎
△公權を停止せよ……内田　魯庵
△藝妓の濫用……新渡戶稻造
□日本家庭廓清會の議……西内　天行
□文部省對基督敎の問題……向　軍治
□敬の文字に就て……水津　千雲
□現代の女子は如何にして健康を保持すべきか……吉岡　彌生
□自由廢業防禦會起る……はつ子
□皇太后陛下……口繪

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

奉輓

皇太后陛下沼津の御用邸にて狹心症の御發病あり、御惱重らせ給ふの悲報傳るや六千萬臣民は驚愕只管御回春を熱禱し奉りたるも、二週日にして御危篤に陷らせ給ひ四月十日青山御所へ還啓、十一日午前二時あはれわりなくも神隱れさせ給ふ。哀しき哉悼しき哉。

伏して惟るに　明治天皇陛下、曠世の英資を以て日本中興の大業を遂げ、光輝宇内を照し芳烈千載に匂ふの偉績を擧げ給ふも、實に我が皇太后陛下の、比儔なき内助の御淑德に因るもの尠らず。陛下は畏くも博愛仁慈常に文學、美術、敎育、產業、慈善等の發達を軫念せさせ給ひ、億兆を愛撫し給ふ事慈母の赤子もたゞならず、御坤德彌高く眞に帝國女性の至上理想を體現せさせ給ふ大君として、蒼生の久遠に慈雨に浴せん事を願ぎ奉る處なりしに、先帝陛下天翔りまし〳〵て陵土未だ乾かず、衆庶慟哭の涙痕猶新なるに、今や鸞駕遠く仙路を指して復玉容を仰ぐに由なし、皂隷惶惑爲す處を知らず。

春は漸く闌けて風切りに寒く、花は梢にありて色既に褪す、天人共に腸を斷つて涙潸然たり、虔しんで奉輓の誠意を表し奉る。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

噫皇太后の宮

御降誕

京都一條烏丸通を東に入れば地上の帑根淸らかに松風の音いと齋やかなる邊に一條左大臣家の舊址あり、年移り星替りて今は何處を如何に尋ねんよしもなけれど、之れなん皇太后陛下御降誕の聖地にて恰かも嘉永四年四月十七日に當れり。

陛下は御父君を從一位一條左大臣藤原忠香公と申し、其第三の姫君に在しまし、御幼名を勝子姫後に富貴姫と稱へさせられたるが、後更に壽榮姫と申上げ、御入內に際し美子と改めさせらる、御連枝の方々としては從一位右大臣一條實良公は兄君に當り、姉君は峰姫美加姫千代姫多百姫御四方の中千代姫多百姫の御二方は眞の骨肉に當れり、峰姫は三條太政大臣實美公の姉君にて一條左大臣家の養女となり、舊熊本藩主細川越中守慶順の室となられ、美加姫は故菊亭大納言公久の女にして左大臣家の養女となり、時の將軍德川慶喜公の簾中と冊かる、千代姫は醍醐前內大臣輝弘公の養女となり越前國淸水町なる五歩一の眞宗別格總本山毫攝寺門跡に嫁し、多百姫は舊大和郡山藩主松平甲斐守柳澤保申の室となる。

御生母の乳人母君は一品式部卿伏見宮邦家親王の御息女にて松壽院宮藤原順子と申し　陛下御年四歲の時御歸嫁ありたるが、御腹は一條家の典醫たりし新畑大膳　源　种成が長女にて民子と申せり。此御方は十六歲の折忠香公の懇望にて御殿に仕ふる事となり花浦と名乘りしが、容姿淸らかにして自ら氣高く且つ嚴格なる家庭に育ちし事とて讀書習字は言ふも更なり、行儀作法など何れも人に勝れ天晴れ攝家の老年寄として其儀表たりしかば、忠香公の室とせられ遂ひに長女千代姫次女多百姫を擧げ、年三十歲の時三女富貴姫卽ち　陛下を產み奉れり、亦御乳人は近江國滋賀郡伊香立村大字途中の農作右衛門の娘やすと云ふを召されしが此女いと溫順にして怜悧なりしより忠香公も大に喜ばれ、花浦の氣にも召し忠實やかに勤め居たり、後富貴姫入內後女監となり名を岩根と賜はり、老年に及びてより京都にて隱居仰付られ厚き御手當てを蒙れりとぞ。

御幼時

陛下には御襁褓の中より何の御障りもなく御生育あらせ給ひたるが、父君忠香公は姫君方の敎養に付ては殊の外注意を拂ひ、姫達が下情に通ず可き術にもとて邸內に特に物

見の臺を作られたるに徴しても其薫陶の如何に親切を極めたるかを察するに難からず、斯て生育あらせらるゝに從ひ日に月に天禀の才德を發揚し給ひ、和歌は父君忠香公に、御筆は久我家附六位侍小島右衛門權大尉永秀の妹隆子並に春日の社司奥從三位大中臣成郷卿の女一條家老女鶴岡大中臣成子が御手ほどきを仕り、其後一條家御門流倉橋治部卿三位安部泰聰卿御稽古申上げ、又御學問は一條家近習貫名右近藤原祐に就きて御稽古あり、御琴は當時の名人にして盲目なりし京都の福永らくに、御茶、禮は一條家御用人にして千家裏流なる伊知地光茂に就かれ、御花は一條家附諸大夫下橋陸奥守源敬義男、下橋敬亮御指南を承はれり。

陛下が未だ壽榮姫と申し御年十歳餘りにて在せし頃、一日侍女家臣等を御供に御墓參あり、其歸途明媚なる洛外の風光を賞せられつゝ樣々の御物語りある中、陛下には何心なく御手を差延給ひ稻の穗の一莖を折給ひたるまゝ暫時玩ばせられたるが、不圖貫名右近が前日御教へ申上たる「苗而不秀、秀而不稔」といふ論語の一句を思浮べられ「實に稻の丈のみ如何に延たればとて實を結ばずば何の役にも立可らず、人も徒らに生長したりとて美果を結ばずんば採る處なし、我れ今にして論語の尊き教を悟れり今後は屹度心を改めて學びの道にいそしみなん」と御伴の者共に仰せられたれば何も　陛下が御悟の速きに舌を捲て驚けりと。

陛下御年十四歳の折、父君忠香公薨去ありければ、其後は兄君實良公を父君の如く遊ばされ、御敬ひ深かりしが、慶應四年四月兄君にも復薨去あり、之より先き慶應三年五月十八日禁裡より御使あり、女御御内定の儀仰出され、同年六月廿七日初御目見の御參内ありて、同月廿八日勅使參邸御決定の御沙汰あり、翌年入内の事となりたるに偶々兄君の薨去あり　陛下の御嘆き一方ならず、絶えず其の菩提所なる東福寺に詣でゝ御後を弔らはせられたれば、何れも其孝悌の厚きに感じ合りとなん。女御は古來五攝家の中より御選定あるは歴史に因て明かなる處なるが、當時は孝明天皇崩御後のことゝて人心恟々として唯目前の急にのみ取紛れ居る際なりしより、其局に當れる者も何家に如何なる姫君の在すやを詳かにせず近衛關白を始め岩倉三條の諸公等女御の御選定に迷ひたる揚句、遂に一條家に才色兼備の姫君達の在す事を知り其中の御一方をと迄は定まりたるも、偖何方を御選定申して然る可きや之には何れも當惑せり、茲に於て後に御教養の任に當れる若江薫子の意見を叩きたるに、御姉妹の中何れ劣り給ふ御方はお在さねど萬民の上に立たせ給ふ尊き御方としては、妹君壽榮姫こそ相應しけれと稱揚措かざりしより、偏に御推薦申上ぐるの段取とはなれり。斯くて決定相成るや女御御方と申し奉る可き旨仰出され、一條家に於ては恐懼措く處を知らず、それ迄は姉君と一つ棟の二室にて暮らし給ひたるを別に邸内に御居室を新築し上﨟として高倉壽子姉小路良子堀川駒子等奉仕して專ら皇后宮としての御修養を積ませられたれば、賢明仁慈の御資質は茲に益々其の基を堅めさせらるゝに至れ

り。

女御として御決定相成たる後は御教育を承れる者共にも變更あり、知光院殿日々一條家に參殿して何かと御教示ある外、御筆は有栖川中務卿二品熾仁親王親しく御教授せられ、御學問は一條家諸大夫若松播磨守藤原永福に御稽古あり、後は伏見宮附殿上人若江修理大夫菅原量長朝臣の二女薫子に就きて御稽古遊ばされ、和歌は近衛關白前左大臣忠煕公御栞申上げたり。又上臈として選定ありたる三女は何れも苦心の末にお見出しに預かれる者なるが、中にも高倉壽子即ち今の高倉典侍は正三位高倉大納言永胤卿の女にて、才德兼ね備はれる賢婦人なれば、當時公卿の姫達中此人を措いて亦他に求む可からずとて遂に父大納言に申入れ大納言は身に餘る光榮なりとて之を請け、遂に今日迄終始一貫御側に奉仕するに至れるなりと。

御入内

明治元年十二月二十六日壽榮姫に對し從三位宣下あり、六花繽紛として天地を淨むる同二十八日の夕、女御御年十九歳にして沿道拜觀の男女堵の如き間を檳榔毛の御車に召され御所朔平門より御入内あり、飛香舎に著御同日皇后宮御所と稱し御名を美子と改めさせ給へり、此日女御の御裝束は御衣帶は十二一重を召し給ふ御髪は大すべらかなりしが、御袴は緋濃色御單は同色、御袿は表白裏紅梅紅の御五衣、紅梅の御上衣は表淺紅、地紋紅梅の散梅、御衵子は紅表の紫裏にて總て禁中より賜りたるものゝ由、而して一條家よりは一の上臈於千枝（高倉壽子）二の上臈於さち三の上臈於八千老女瀧岡御乳人やす外九人の仕女供奉せり申すも畏き事ながら當時の朝廷は窮乏を極め、加ふるに、孝明天皇崩御等御多事なりし事とて平常にありてすら皇室の威嚴を保たせ難き御有様なりしかば、女御御入内に付ては朝廷の御内帑に於ては御大典の費用に付き融通の道なく遂に戸田大和守等の奔走にて幕府より若干の献金をなすに至れるが如き次第なれば御式典の御質素なりし事は御追懐申上ぐるさへ畏多きばかりなりしとぞ。

立皇后宣下

明治元年十二月廿八日即ち御入内の當日を以て清涼殿に立后宣下の御事あり、當時の公文に

巳刻女御御入内即日立后被仰出候事

と見ゆ、御儀式は飛香舎より常の御殿に入らせられ南廊下に御著座あり、此時明治天皇陛下には御引直衣御單紅御袴を召され上壇に出御、御獻の御事あり、中壇に控たる大典侍御配膳御酌を承り勾當内侍御手長を仕へまつれり、次で清涼殿に出御夜の御殿にて御式あり、大典侍唯一人仕ふまつる夜の御殿の四隅には釣燈籠あり女御御持參の火を點じ「三日夜の餅」と稱し、三夫婦揃へる臣下より獻上せる餅を高坏に盛りて供ふ、夜の御殿の御式全く畢て常の御殿へ還御、天皇御直衣を解かせられ女御御五衣を解かせら

れ、一の間に於て更に御宴の催ふしあり、茲に始めて皇后宮中宮の御稱を廢し皇后宮と稱し奉れり。

御發病

之より先き九月二十日聖上には京都御發輦十月十三日大内山に入らせらるゝや、直に江戸を東京と改め此地を以て皇城と定め給ふ、斯くて一旦京都に還幸立后宣下の大典を擧げさせられ、翌二年三月二十八日鳳輦再び東京に行幸茲に萬代不易の礎を堅めさせられたれば　皇太后陛下にも東京に行啓あり、爾來皇居に御起居遊ばさるゝ事四十有五年偏に　先帝御聖徳の發揚に努めさせ給ふ、明治四十五年七月三十日先帝崩御即日　今上陛下御踐祚の御儀あり年號を大正と改めらる、陛下には先帝の御靈柩御見送の後沼津御用邸に行啓あり。大正二年四月東京に還啓直に皇太后陛下の御所と定められたる青山御所に入らせられたるが同年冬更に沼津に御避寒のため行啓あらせらるる皇太后陛下には、青松白砂風光いともめでたき御用邸に玉體安らけく御起臥遊ばされ、何事の御障りもあらせられずと承り、只管寶壽の萬歳を祈り奉るのみなりしが、去月二十六日より俄に御不例、左胸部に疼痛を感ぜさせられ、發汗嘔吐の御事あり、安眠あらせられず、狹心症御發作の御模様と定まり侍醫頭、御用掛の人々日夜御枕邊に付添ひまつりて御拜診申し上げしが、其の後御容體は一弛一張の御姿にて翌二十八日も御安眠あらせられず、三浦、青山の兩博士急遽參候、二十九日には御脈四十六に減じ御頭痛を訴へさせられ、三十日は幸に御小康と承りしも、御病症が御根治困難なればまことに御憂慮申し上げつゝありとやうの報傳はり、明けき春の光りも曇れる思ひにて、人々心を傷め御平癒の一日も早からんことを祈りまつるのみなりき。三十一日には稍御良好の御容體、一日は御安眠、二日は再び御不良にて御亢奮の御氣味あり少しも御睡眠遊ばされず、三日には御尿毒症と決し、五日には氣遣はしき御睡眠のことあり、然るに八日には御懸念申し上げし二週間の峠も、恙なう御經過遊ばされ、御食量も御增進、御手づから御食事をも取らせらるゝに至り、御病室の御掃除をもなし參らせ、久しく愁雲に鎖されたる我入道の御用邸に御悦びの聲滿ちたるが、九日午前一時五十分といふに思ひがけなくも又々強烈なる狹心症御再發、有ゆる御手當を申し上げしも、漸次御危篤に陷らせられぬ。

兩陛下沼津行幸啓

九日早曉皇太后陛下御容體御急變の趣奏上するや、天皇皇后兩陛下には、皇太后陛下御見舞の爲、沼津行幸啓の儀仰せ出されたり。宮中にては直ちに諸大臣に急電して、行幸啓の準備を整へ、午前六時四十五分、兩陛下御同乘にて宮城御出門、同七時十五分新橋驛發の宮廷列車にて、愁雲暝々たる沼津に行幸啓あらせられたり。

沼津にては八日夜來の風名殘なく晴れたれど、照る日さ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

へ光薄く皇太后陛下御容體御急變の報あるや、午前十時五十分竹田宮、北白川宮、朝香宮各殿下には妃殿下と共に御來着御用邸に成らせらる續いて、十一時八分喇叭の音と共に兩陛下の御召列車は靜に沼津停車場に着、天皇陛下には御料の馬車に皇后陛下と御同乘伏見宮殿下御陪乘にて直に御用邸に急がせ給ふ。御馬車に次いで東宮二皇子御使中川主事、丸尾傅育官長馬車にて從ひ共に御召列車に供奉して來着せる山本首相を始め各大臣、山縣公、松方侯、河村宮內次官、床次鐵道院總裁等五六十臺の腕車を驅りて御用邸に參內す。沿道には沼津商業學校、中學校、女學校、小學校、消防組、愛國婦人會、赤十字社員等停車場より御用邸に至る間に整列して恭々しく奉迎す。御用邸門前には沼津警察署長三十名の巡査を隨へて御警戒申上げ、門內には衛兵整列して奉迎する中を兩陛下には深く打沈ませられたる御氣色にて、木立薄曇る御門內の通路を一文字に着御あらせられたり。

兩陛下には御先着の六殿下、香川皇太后宮大夫等の奉迎を受けさせられ、別の御座所にて御小憩の後、香川皇太后宮太夫の御先導にて、皇太后陛下の御病室に入らせ給ひ、御床の上に横はらせ給ふ御母君陛下に御對顏あらせらる。伏見宮殿下及び六殿下も同じく其の後より御次ぎ〳〵に御對顏あり、稍遲れて十一時三十四分泰宮內親王御參邸ありて御見舞を言上あらせらる。

斯くて御親子御對面を終らせられたる後、兩陛下には午後零時四十分沼津停車場御發車、還幸啓仰出され、行幸啓の際と同じき御鹵簿にて、諸官町民の奉送の間を、御用邸御發輦沼津停車場御發、午後四時四十分新橋着還幸啓あらせられたり。

還啓崩御

皇太后陛下には九日午前二時十分に至り愈々御危篤に陷らせられ、遂に十一日を以て東京御還啓仰出さる、午後十一時過新橋驛御着プラットフォームに御馬車を着け、列車より直に御馬車に移御し參らせ、青山御所に還御あらせらる。

四月十一日宮內省告示第五號を以て左の如く御發表相成りたり、嗚呼。

皇太后陛下今十一日午前二時十分崩御あらせらる

大正三年四月十一日

宮內大臣男爵　波多野敬直

之と同時に、御大喪に付き十二日より三日間廢朝御仰せ出され、本年十一月の即位御大禮は御中止となり、世は再び諒闇とはなりぬ。

廓清時言

大隈内閣成る

本會は素と政治的結社に非ず、從つて不偏不黨、如何なる内閣の出現も之を妨げず、要は『貞潔』の大旆を飜し、家庭の和樂を圖り、社會の福祉を增さむとする立場に、反するものは即ち擊ち、贊するものは即ち迎ふ。然らば今次波瀾幾曲折の後新になれる大隈内閣は如何、大隈伯爵は實に本會の顧問にして吾人と其主張を一にす、否常に吾人を指導せられつゝありたる人なり、今や伯爵は首相の印綬を帶び、兼ねて内務に相として、其政見を實行せらるゝの日に會す、歡迎の辭なきを得んや。

戰闘的態度より實行的態度に

從來臺閣の椅子に凭る者は常に吾人と見る處を異にするがため、止むを得ず吾人は反政府的態度を持せざる能はざりき。而して今や此の戰闘的態度より提携研究の道程に步武を一轉進するの時期に到達したり。蓋し大隈新首相は平生の主張を實現せらるべきを信ずればなり、吾人は又元より之れを要望す。然れども公娼制度の廢止は、習慣に其耳目を蔽遮せられ國民の道德觀念を痲痺せる事甚しきが故に、多少の準備を要するは勿論ならん。玆に於てか吾人は伯をして後顧の憂なく一日も早く其抱負を遂行せしむるが爲めに強大なる輿論を喚起するの責任を感ず。同志が多年臥薪嘗膽の努力は、今や漸く實行の域に近きたるが如し。妖魔が領する常夜の闇は、見よ東の空に茜さし、天は將に明けむとす。雲耶山耶呉耶越耶。漕げ陸となりて汝の憧憬を充たすべきか、霧と消えて波濤の弄ぶに委すべきか雙の鐵腕に渾身の力を籠めて。今を措いて復いつの日をか待たむ。奮へ人道を愛するの士、天は將に明けんとす、今を措いて復いつの日をか待たむ。

婦人を侮辱せる衆議院

我國の上下兩院議員が、多くは口に立憲政治を唱へながら實は封建覇者の舊思想に文明の上塗りをかけたる者にして、動もすれば其木地を露すの醜態を見る。殊に彼輩は、個性の何たるか、人格の尊嚴の如きは其の理解し能はざる處、今期議會に於ても二個の婦人を侮辱せる討論を見たり。一は婦人の有夫姦同樣男子の有妻姦を罰す可しとする一夫一婦の請願にして、二は婦人に政談演說の傍聽を許可せんとする精神の下に治安警察法中の改正案なり。而して其一は年々請願委員會の採擇せざる處、本年も亦其例に洩れず、男子閥の横暴今更迄もなけれど、第二案否決の理由に至りては一擊を與ふるの必要あり。即ち彼等は、婦人は感情的にして動もすれば常

軌を逸し、矯激に流れ、偏頗に陷り、虛榮に趨り易く、我國民性たる婦人の溫良恭謙の美風を損ふ可しといふ。それ或は然らん、乍併大體に於て婦人の感情的にして矯激に流るゝは卿等が幾百千年、其の教育を奪ひ理性の發達を抑壓したるが爲に非ざるか、偏頗に陷るは家庭に幽閉して其見聞を狹めたるが爲めに非るか。虛榮に趨り易きは眞實なる生活を許さゞりしが爲に非るか。強ひて口を緘して置き乍ら、聲を發せざるに非ずやとて啞者扱せんとするは、非立憲も亦甚しからずや。去り乍ら、彼等が何日迄も婦人の教育を呪ひ、纏足を強ひ、奴隷として、人形として愛せんと欲するとも、地球は遠慮なく東より西へ旋轉し、時は容赦なく慶應明治を去れり。日比谷原頭の天保劇は既に遙に背景より離れたり。時代錯誤の悲哀切々として胸に迫るを覺ゆ。

國民を侮辱せる貴族院

貴族院に於て奇怪なる辯論を聞きたるは、我等の尊敬する根本正氏が下院に於て辛うじて通過せしめたる、未成年者禁酒法案なり。林博太郎伯爵は『東洋の道德は豪傑道德にして豪傑道德には酒と女は附き物なり』と一笑の下に葬り去りたり。日本貴族の淺薄幼稚なる憫殺するに堪へたる事なるが、歐米にては斯かる言語は私的の場合に於ても紳士の口にするを恥づ、身は皇室の藩屛にて、而も一國の議政壇上より敖然として放言する者あるに至つては、婦人のみと云はんや、國民を侮辱するの甚しきものと謂ふ可し。

婦人參政問題

紐育來電によれば『市俄古市選擧に於て十六萬人の婦人投票せるが、其際彼等は多く男子候補者に投票せるより、九人の婦人候補者は一人も市參事會員に當選せず』と、又曰く『婦人參政の結果、イリノイズ州內十六郡十一市の酒場廢止されん』と。是れ前者は徒らに性の異同に執着して、神聖なる投票の選任を誤らざるを示し、婦人の參政が何等の危險を意味する事なきを語るものに非ざるか。而して後者一千のバーの閉店を見むといふに至つては進んで婦人參政の結果を謳歌せざる能はず。オリブシユライネルが、婦人參政によりて始めて戰爭の慘禍を地上より除き得可しと云へる、味ふ可し。

小學教育の神聖を涓瀆す

牛込赤城小學校にては、卒業式の餘興に、其卒業生中神樂坂の半玉にて藝名小半と呼ぶ者をして、三味線を彈かしめ踊りを躍らしめたり。半玉と云へば學童なり共明に藝妓營業者也、露骨に云へば賣淫婦の仲間也、藝妓の營業稅は納むれども淫を鬻ぐには年の足らぬ迄の事也。然るに苟も神聖なる小學校の教壇に、藝名小半と銘打つたる純然たる私娼の卵をして、彼等が他日男子を誘惑挑發するの唯一の藝當を演せしむ、驚かざらんとするも得んや。彼等の技藝の巧拙は直に他日の毒牙の鋭鈍を意味す、之れに向つて其妙手を喝采する職員と生徒と父兄と、觀じ來れば宛としてバーナードショーの

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

喜劇にして、裏に無限の悲痛を包む。

斯如にして純潔雪の如き少年少女が、神聖なる永劫の紀念式に、汚穢極まる印象は與へられ、不貞潔の萌芽は促されんとす、卿等六年の螢雪、一朝にして空し。悲しまざらんとするも得んや。

吉原花魁道中の再興

吉原遊廓にては博覽會を當て込み愈〻徳川時代の花魁道中を再興する事となり、錦絵にて見る樣なる、一尺餘りの高下駄を穿ち、綺羅眼を眩する許り著飾りたる遊女どもが、八文字とやらを蹈み、廓内を練り歩くとの事にて、目下それぞれ練習中なる由。曩に吾人は酉の市を避病院の園遊會に比したるが、酉の市は大鷲神社の祭禮にて其位置の殆んど接續せるより、吉原が之れを利用して、參詣と見物と主客顚倒せしめたるものなるが、花魁道中に至りては、全く露骨に、風紀上の避病院に於ける傳染病患者の最も優秀なる即ち肺ペスト患者、それ自身を俳優とするものなるが故に、其害や測り知る可からず。滿都の老弱が羞恥心を沒却して蝟集し、大正博の見物連が踵を接して群り行くの狀、想見するに餘りあり。

斯くてバチルスの放散を甘受する幾萬、幾十萬人。千葉縣に於けるペストの發生に騷擾する警視廳と、内務省と、一層猛なる恐るべき此傳染病の跳梁を如何せんとするか。

而も記憶せよ、畏れ多くも皇太后陛下神去りまし〱て、國民喪に服し謹みて哀悼するの時、何者の不忠漢か、此非行をなさんとはする。吾人は是非共此計畫を打碎き、彼等非國民の不忠不義を膺懲せざる可からず。

五衰滅色の本願寺法主

全國に十萬の末寺と、百萬の信徒を有する本願寺が、腐敗其極に達し遂に伏魔殿の醜態を天下に暴露したり、東本願寺の大谷光演は荒淫飽くなき痴漢にして、西本願寺の光瑞法主は魑魅魍魎の巨魁なりといふ。善男善女が渇仰喜捨の淨財は却つて惡僧が犯罪破戒の資となり、渡邊宮相の辭職亦此間の醜關係に因すと傳へらる。大宗派の法主と云ひ、皇室の事を司る大臣と云ひ、風敎の上に影響する處甚大にして、吾人の一言を惜しむ能はざる者あり、彼等が迷夢猶未醒、徒に血脈相承に制せられ、宗敎の本旨を忘れ、法燈を高く揭ぐる事なくんば、豈唯に法主の天人五衰のみに止まらんや、王法佛法は念佛無間墮地獄本願國賊の譏を免るゝ能はざるに至らん。

大正博藝妓演藝禁止請願

大正博覽會にては、演藝館なるものを設け、市内の藝妓町交代にて、今日は新橋、明日は烏森といふが如き、プログラムを作りて、彼等の舞踊を公演する事となりたるより、本會に於ては捨て置き難く、加藤弘之男、村上專精博士、江原貴族院議員、安藤禁酒會長、成瀨女子大學長、浮田博士、向軍治氏、三輪田元道氏、高島米峯氏、福島四郎氏、津田梅子女史、矢島矯風會長、山室救世軍書記長官、島田本會長、安部

副會長、内ケ崎理事、益富理事等の連署を以て、三月三十一日附別項の請願書を提出したり、因みに、同館は、皇太后陛下御登遐のため、當分閉鎖する事となりたり。

宗像東京府知事に與ふ

道途傳ふる處によれば、宗像大正博覽會長、嘗て廣島に知縣たるの時、劇烈なる花柳病に罹り、遂に吾人の明に書くを憚る程の手術をなしたりと、以て彼が如何に卑劣漢なるかを推測す可しと雖、長谷場純孝氏薨去の際氏の回舊談なるものゝ新聞紙上に表はれたるを見るに、氏は中江兆民と、長谷場純孝とよく三人連れにて吉原へ通ひ、無錢にて遊興をなし、翌朝一人は留りて二人馬を牽き歸るを常としたりとの囈語を得々として吐けり、貞操道德の何たるを知らず人格の尊嚴を解せざる痴漢の放言が、死者たる長谷場氏の靈を辱しめたるをだに悟らず、斯かる言行を記載する新聞紙の品格もさる事ながら、一時は内務大臣たらんと迄奔走したる公人としての彼の破廉恥が、風敎の上に及ぼす影響を恐るゝと共に、他日演藝館開始の豫防線として一言痛棒を加ふ。(江南)

大正博覽會に藝妓の演藝を禁ずる請願

本文は本會及び婦人矯風會救世軍風俗あらため會其他の有志より三月卅一日付大正博覽會長へ提出したる請願書の寫しなり

謹啓、東臺の櫻花將に朱唇を破らんとする時に當り、大正新政の萬歳を祝福せんために御計畫の大正博覽會無滯彌御開會の御運びに至り、誠に以て慶賀此事に御座候。

抑も大正博覽會は明治より大正に移る過渡期に際し、一は過去に於ける明治文明の赫灼たる大功績を語り、一は洋々たる未來に向つて向上發展せんとする大正の首途を記念する爲に、實に此上なき良好なる御計畫にして、之が爲御盡瘁被下候閣下に對しては我等は滿腔の赤誠を以て奉感謝候。

然るに承り及び候へば貴會に於ては今般藝妓の演藝を公衆の觀覽に供せしめられ候由、是大博覽會に取りて白壁の一瑕瑾と存じ、頗る遺憾に存じ申し候。

殊に我等常に社會風敎の頽廢を憂ひ　先帝陛下の御遺詔に基き、家庭にありては、一夫一婦の大倫によりて「夫婦相和」の詔を實行し、社會にありては、惡風、汚俗を廓清して「醇厚の俗」を成さしめんため、而して其根本問題として普ねく男女の間に貞潔の德操を奬むる事に努力致居候者にとりては這般の御企ては、風敎道德の上よりも將又國家の體面の上より見ても決して小問題として等閑視する能はず、依て茲に聊か吾徒の主張を開陳し、賢明なる閣下の御一考を相煩度存候。

抑も『藝妓』とは如何なるものに候ぞ、其表面は酒間を斡

旋し、猥褻歌曲を以て生業とすとは申候へども實は裏面に於て最も擯斥唾棄すべき行爲をなして生計を營む者なる事は周ねく人の知る處にして、彼等の藝は疑もなく裏面の醜穢を蔽匿粉飾する表看板に過ぎず、卽ち彼等は媚を賣り、肉を鬻ぐ、顯然たる私娼に外ならざるは何人も疑はざる處に候。加之、彼等の常に腐心する處は、如何にせば男子をして痴蝶狂蜂の態を演せしむべきかにして、斯くて日夜罪なき家庭に悲劇の毒藥を投じつゝあるものに候。嗚呼彼等のために社會は先帝の御遺訓たる「忠實服業」の精神を損ひ「勤儉産を治め」ざるのみか、却つて不勤儉にして產を破る者頻々、而して世は滔々として華に就き、實を去り、醇厚の俗を變へて、奢侈淫逸に流れんとす。之れ苟くも世道人心に志を懷くものゝ夙に深憂に堪へざる處には候はずや。

然るに世人は此戰慄に堪へざる罪惡の根源を見る事日常茶飯の事とし、習慣の爲に耳目を蔽はれ、藝妓に接して毫も耻辱を感ずるの念なきは、所謂鮑魚の肆に居る久しうして其臭を知らざるの類乎。勿論賣春婦の絶滅てふ事は難中の難事に候へども、而かも既に破操非倫の醜業婦たる事明白なる以上は斷じて之を社會の表面に出すべきものにあらず。蓋し賣春婦は恰も下水の如く、道路の表面に流れしむべきものにあらずして正に地下一丈の暗渠の裡に流さしむべきこと、是文明國民の取るべき道と信じ候。然るに悲しむべし、我國に於ては男女間の道德極めて幼稚にして下水、卽ち賤しむべき醜業婦をして社會の表面に氾濫せしめ、而して何人も其醜態妄狀を咎むる者無之、堂々たる大正博覽會に於てすら其上棟式に其開會式に、數百人の醜業婦を會し、艶容を競ひ綺羅を耀かして百花繚亂を誇るの奇觀を見る。焉ぞ知らん、文明の紳士淑女の眼には是實に下水の一大噴水に外ならず。如何に此點に於ける道念の鈍き本邦なればとて、畏くも宮殿下の統裁せられ、世界の東京府が行ふ、新帝御治世第一次の大博覽會が、賣淫婦を會して――警視廳によりて目立つべき服裝をなす事をすら禁せられたる――彼等に盛裝せしめ、八百人といふ大衆を集むるが如きは、誠に以て言語道斷の儀と存候。

而かも奇怪は之れのみに止らず、聞く處によれば演藝館に於ては會期中藝妓卽ち賣淫婦の技藝を演せしめらるゝ趣、驚愕此事に御座候。賣淫婦輩と席を同じうするは實に品格ある紳士淑女の屑しとせざる處、況んや、彼等の技藝を高壇より公演せしめらるゝに至つては、殆んど堪へ難き侮辱を感せざる能はず。加之、更に痛嘆すべきは斯の如く醜業婦を優待する事が、さなきだに頽廢せる世道人心に如何なる惡影響を及すべきか、これを想像する時は國家の爲め實に憂慮に堪へず候。且つ大正博覽會は列國環視の下にありて、文明國人の來り觀る者亦少なからざるべく、而も既に在邦外人の尊敬すべき紳士淑女は博覽會に於ける藝妓の演藝公開を以て日本のために痛嘆すべき事となし我等に對して諄々として其非を說く者多く、說かずして憂ふる者の更に多く、現に之を非難攻擊するの文外字新聞にも相見へ候樣の次第に御座候。されば閣下何卒我等の微衷を容れ、風敎道德の爲め將又國家の體面の上より、何卒一日も早く、斯かる耻づべく歎はしき興行を禁止せられ度切望に不堪茲に謹んで奉請願候也。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

教育及道德上よりせる 大正博覽會論

文學士　三輪田元道

教育といふ事には自ら廣狹二義がある、私は常に廣い意味にこれを解釋して居る者で、社會の周圍も亦教育の一部分であるとするのである。狹い意味でいふ教育は即ち教室内の教育である。教室内の教育も多少の効果がある事は勿論であるが、社會全般の教育に注意しないならば、それは必ず徒勞に歸するのである、子供がよく逗子や鎌倉の海岸で砂の山を築いてゐる、そしてこれは松島の風景であるとか、天の橋立であるとか云つて喜んで居る、然るに一度大波が寄せて來ると折角の砂の山は忽ち一場の夢と消えて了ふ。教室内の教育が丁度之れである、教室内に於て比較的よく出來上つた、如何ですか御覽遊ばせとつき出した處は如何にも奇麗であるけれども、いざ社會へ出て見ると、忽ち大波が跡形もなく洗ひ去つて、たゞ懷しい夢物語を殘すに過ぎなくなる。今の教育家は之れではならぬと海岸に砂の山を一生懸命築いて居る。額に汗して打固めて居る。けれどもそれはいつ迄經つても徒勞である。私は斯ういふ見地から、教育に從事して居ながら政治を忘れない風教を忘れない、あらゆる社會の事象に注目を怠らない、そして幾何か其方面に貢献せんと期する所以のものは、實は自己の職分たる教育を完成せんが爲に外ならぬ。

此意味に於て私は博覽會に對しても相當の注意を拂つてゐる、而して私の廣義の教育的見地から、遺憾ながら大正博覽會に賛成する事が出來ないのである、尤も中には教育館といふものも出來て居る、併し教育上參考になるやうなものではない、私共の眼には教育館は全く無意味であつた、否寧ろ彼麼非教育的な教育館など設けて貰はぬ方が餘つ程よかつた、あれでは却つて人を僞善に導く導火線となるであらう。

△

私共が博覽會に行つて、先づ第一に不快な感じを喚び起すものは入場劵に福引劵を附してある事である。世間では百圓當つた何を買はうかと騷いでゐる、福引を附したのは斯うして世人の僥倖心を煽り、入場者の多からん事を企圖したものである、今少し露骨に云へば入場料の多く上らん事を庶幾したのである、是が營利會社の事ならいざ知らず苟も政府——公共團體が爲すに至つては啞然たらざらんとするも得んや。

刑法學者の説に從へば、賭博とは機會を目的とする、偶然の結果によるものであるといふ。熟練を要するもの、實力又は技術を要するものは博奕ではない。即ち大弓であるとか、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

相撲等の如きは此點に於て博奕といふを得ぬ、然らば福引は如何であるか、熟練を要するや、技術を要するや、いふ迄もなく偶然の結果に外ならぬから、賭博である、と云はねばならぬ。一體賭博は西洋では罰して居らぬ、それを日本では禁じて居る位に君子國であると云つて居乍ら、政府自ら富籤を行つて居るのである、即ち個人がこれを行へば縲絏の辱しめを受け、政府や公共團體がなす場合には政策であるといふ、而してうまく成功したと誇るのである。何たる矛盾であるかそれ位ならば始めより日本の刑法を改正して賭博犯といふ樣なものを設けないがよい、我々は矛盾を容認する譯には行かぬ、斯ういふ矛盾の行はれるのは、外に向つて日本の恥辱であり、內に向つて國民の虐待である、一方に政府自ら人民の僥倖心賭博心を挑發誘導して、他方に人民自ら之れを爲す事を咎むるのであるから、人間を虐待するものでないか、殘酷なる政策ではないか、大正博覽會の入場券は如斯經濟的にも道德的にも國民に毒を盛るものである、大正博覽會に對する不快なる第一印象は、既に入場券より出立してゐる。

△

入場券によつて不愉快な感情を誘起されて場內に入ると、更に猛烈なる惡感が吾人を襲ふて來る、それは第一音響である、第二色彩である。音響と色彩とは、入場者を隙間もなく打つて叩いて、無理無體に人間を野卑にし樣とする、何だか押つ冠せる樣に、壓しつける樣に、淺薄なる物質文明の假面を冠つた下劣なる雰圍氣中に引ずり込まうとする、虛榮浮華の笞で亂打する、心ある者は全く悖へて了う。大正博覽會は概括して云へば、近代式の弊風を臆面もなく曝け出したものである、何處に殖產工業の發達を企圖した跡があるか、何處に文明の進運に貢獻せんとする努力を見出し得るか、たゞ妄りに强烈なる刺戟を以て劣情を唆り、奢侈品に垂涎せしむるのみではないか、之れ一度杖を東臺に曳きたる者の等しく感ずる處であらねばならぬ。當局者と雖も亦必ず然らん、若し彼等にしてしかく感ぜずといはゞ、彼等は到底治者の位置にありて、一世を指導すべき者ならず、私は敢ていふ、彼等は唯徒に威張る事を知る、沐猴にして冠したる者であると。

大正博覽會に於ける刺戟を與ふる物として、最も甚だしきは美人館である。西洋にても美人は可なり社會から尊敬される、美人其物は無論惡い事ではない、人種改良の上から見ても美しいのは結構な事である。けれども博覽會に於ける美人の利用は、何かと云へば醜劣なる感情を起さしめ、それによりて愚衆の山を築かんとするものであるから、人間を毒するの甚しきものである。吾人のこれをいふ所以の適切なる例は開會式の前日其の美人連を自働車に乘せて市中を練り廻はしたる一事によりても斷定を下し得やう、あれは果して人種改良を意味すと謂ふを得る乎、美人を尊敬奬勵するものであると謂ふを得る乎。彼や即ち人間の人格を無視し、解語の花となし、微笑を洩らす動物となすものでないと云ひ得る乎。果然館內に於ける彼等の陳列は、何の尊敬、何の愛情をも

注がるゝ事なしに、犬馬に接近すると一般に眺められて居る吉原の格子先から遊女を冷かす心持を以て冷かされてゐる、而してこれが實に大正博覽會のライオンである――動物の意味ではない一番有名なものといふ意味の――といふのは、人道上到底看過すべからざる事ではあるまいか。

△

更にそれよりも酷いのは藝妓の演藝である。全體藝妓は文字通りに解釋すれば何でもない、併し其實は申迄もなく賣春婦なのだから問題になるのである。それなら彼等の言語動作が文藝の上から見てそれ程價値のある者であらうか、否々何の値があらう。たゞ、よく語り、よく笑ふ、一の花、一の動物として公衆の好事心を滿足せしめ、陋劣なる情慾の對象として茲に引出され、それを呼物として衆愚を釣らうとしてゐるのである。之れが淺草邊りの營利事業なら兎も角、堂々たる政府の仕事たる博覽會内に行はれるといふのは、國民の忍ぶ能はざる汚辱ではあるまいか。殊に大正博覽會は大正の新文明を謳歌し、畏れ多くも新なる天皇の御卽位式を御祝申上ぐる意味に於てするといふのであるから、一入恐懼に堪へないのである。斯うした敬虔なる意味があるのなら、もつと眞面目に行はれねばならぬ、眞に皇室を畏れ國家を愛するならば、博覽會を見て大に參考になつたといふ樣にならねばならぬ。娛樂物なら娛樂物らしく大正娛樂館とでも銘打つてやるがよい、假りにも博覽會と稱して、而も神聖なる意味があるかの如く云ひ觸らして居るのは、眞に畏れ多い事である。

私は日本人の道念が稚鈍で、善惡の判斷を曖昧にして顧みないのを常に遺憾に思ふ。非人道的、非教育的の出來事を見ても『まあいゝぢやないか』『花時だもの』『無粹な事をいふな』などゝ濟ましてゐる。社會現象の善惡を、まあいゝ位で葬り去る譯には行かぬ。一體社會の發達を助長するものは Good である、社會の進運を阻害するものは Bad である。然らば此博覽會は如何なる影響を社會に與ふるであらうか、其の農產物を見て何人か農事の改良を思ふ人ありや、其工藝品を見て、其染織品を見て、何人か參考になり得たとする者ありや眼に着くものは富籤である、音響色彩である、美人である、藝妓である。而して以上を綜合して考ふるに、毫も社會の進運に資する處ありと云へないのみならず、却つて社會の發達を阻害するものではあるまいか、卽ち先きの規準に當て嵌むれば大正博覽會は實に Bad である譯である。

△

此の惡の博覽會によりて經濟的に利益を得るものは飲食店と宿屋である。天下の大勢から云へば國民は間接に疲弊する商況が活潑になつたと思惟するのは飛んでもない誤りである。虛榮心を挑發せられて不用の品物を購ひ、一杯飲んだ酒の勢ひで不道德を行ふ、待合が賑ひ吉原が盛る、博覽會は實に人心を墮落に導くには頗る効果がある。大正博覽會を具體的に評すれば淺草の活動寫眞や玉乘を大きな勸工場の側に持

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

つて來て、それに酩酒店待合の類を加へたやうなものである活動寫眞館と勸工場と待合とこれ丈あれば博覽會になるとは何たる事であるか、申譯的に美術館や敎育館を設けたとて娛樂場が博覽會にはなれぬ。大正博は、研究的な眞面目な期待を以て行くならば忽ち失望して了ふ、大きな勸工場を觀る積りで行かねばならぬ。淺草に行く積りで行かねばならぬ。

人類を蠹毒するバチルスたる藝妓の演藝が呼物であるといふ一方に、國體がどうの、風紀がどうのと悲憤慷慨の辭を揭げてゐる、斯くては彼等の悲歌は俳優の聲色と一般である、何の權威があらう。一家の家長は子弟に對し實際的の模範を示さねばならぬ、政府に於ても公共團體の如きは國民に對して範を垂れなければならぬ。每日幾萬と上京しつゝある地方人は、先づ其の建物に嚇されて眼を丸くしてゐる、そして其喫音と色彩とに魂を奪はれて居る。彼等は文明とは這麼ものかと思つて居る、而して彼等が居村に歸るの日、如何なる土產を齎すであらうか、二重橋と、而して吉原とは彼等の見物談から落す可からざるものである。地方に於ては屢々共進會が催される、此時彼等は範を此の大正博覽會に取るに相違ない、大正博を小さくした、勸工場と見世物と、而して待合を集めた共進會が營まれるであらう。今迄蓄音機で濟ました處も、これから藝妓を引張り出すに相違ない。斯くても大正博覽會の及ぼす惡影響に戰慄せすとするか。

上野公園の地たる、回顧すれば舊時代の恩顧を受けた武家の侍と、新時代の魁をせんとする志士とが、互に義理人情の爲に血汐を流した靈場である。彰義隊の墓は今も香華が絕えない。嗚呼世の革新の犧牲となつて長へに眠れる忠魂義魄、地下に靈あらば此の醜態妄狀を見て、定めし犬死したと嘆くであらう、我等の犧牲が今將た何の狀ぞと泣くであらう。

此地は又櫻花の名所である、櫻は物質を離れて非常に深い意味の所謂敷島の大和心を象徵したものである、其淨地を俗氣紛々たる空氣を以て蔽ふのであるから、櫻若し靈あらば、彼等の間に心ならずも咲き匂はねばならぬ事を悲しむであらう。這麼博覽會を見るよりも、此淸い櫻をめづる方がどれ程愉快であるか知れぬ『井の端の櫻あぶなし酒の醉』と無邪氣に太平を樂しんだ昔の俤今何處。紅塵萬丈の俗惡なる人工と朝日に匂ふ櫻花の自然と、實に妙な對照ではないか。

最後に私は以上によりて斷案を下さねばならぬ『大正博覽會は近代式の弊風を臆面もなく曝露し、而してこれを傳播する處である』と、私は何も博覽會が厭だ、嫌ひだといふのではない、も少し眞面目に眞個文明を助くるものたらしめたいといふのである、廣い意味の敎育に裨益する處あらしめねばならぬといふのである。算盤勘定のみして損をしまい、あはよくば儲けやう〳〵として根本の會其物の性質を閑却した事を責るのである。七月と云へば未だ先の長い事であるから敢て當局諸公に苦言を呈して反省を促さんとする者である。（畝）

博覽會と藝妓問題

經濟界の攪亂者

法學博士　小林丑三郎

風儀道德の方面は暫く之れを諸君に讓り、私は其の專門の立場から藝妓を排斥するものゝである。私は賣笑婦の問題を經濟の一點より觀るのであるから、自ら諸君と異つた結論に達するかも知れない。私の考では、我國の娼妓は藝妓に比すれば未だ經濟界を攪亂する事少きものである。公娼固より望ましい事ではないが、私は前後を顚倒して先づ藝妓の剿滅を急務なりとするのである。

第一に藝妓は接觸點が多い、第二に流行の源泉である、第三に勤儉貯蓄を破壞する。藝妓は空中のバチルス同樣如何なる部分にも觸れて居る、時の制限がなく場所の制限がないから此點は遙に公娼の害に勝るのである、殊に中流以上の階級を悉く網羅してゐるのであるから、經濟的に關係が大きい。又世間の人が娼妓の眞似をするといふ事は絕えて聞かない處であるが、衣裝其他頭から足の先迄、藝妓の流行を逐つてゐる、これも經濟的に關係が甚大きいのである。藝妓の害毒は地方に於て殊に甚しく、固定財產が常に動搖する、父祖傳來の資產の安固を缺いて、一起一仆が極めて烈しく行はれて居る。從つて一の會社に用ひられて居つた器械器具や職工やが、其會社の倒れて他の會社が起る爲めに、其の離散集合に無駄な時間と金錢とを費さねばならず、加ふるに熟練が缺ける、これ等は直接非常な經濟的の打擊である。

貯蓄といふ事も二宮流に消極的の貯蓄は、產業を萎縮せしめる、土地を衰微せしめる。何故とならば郵便貯金ならば其金は皆中央に集まる、銀行にしてもやはりさうである、土地の金が皆大都會に集つて其處で働くから、地方は萎靡するばかりである。併し其貯蓄を其土地で使ふやうになれば、始めて土地の繁榮になる、其土地で使ふといふのは產業の勃興をいふのである、然るに藝妓といふものは賭博同樣裸になる迄費はせるから、貯蓄どころではない、却つて事業を破壞する勤儉力行の風廢れ、遊惰淫逸に陷るものである。

經濟的に云へば如何なる娛樂も、排斥しなければならぬ樣であるけれども、それは皮相の見解で、娛樂は適度に行へば却つて好結果を生むものである、娛樂は勞働の慰安であるから、新しい努力を胚胎する原因となるのであるが、併し藝妓に至つては賭博と同樣、性質上あとを引いてぱつと止める事が出來ず、深みへ深みへと這入つて行く。外國のやうに博奕

も春秋二回位に定めてあると餘り弊害がない、負けて殘念だと云つても秋迄待たなければどうする事も出來ない、斯ういふ風になつてゐるから耽る事もなく、勝つても負けても餘計の金の出入で、生活の上に影響する程でないから弊害が少く、犯罪として取扱ふ必要もないのである。けれども日本のやうにいつでも如何なる場所にても行られるとなると、社會を毒する事が激しいから取締の必要が起る藝妓が丁度それである。

　經濟界を攪亂する藝妓を、動もすると土地の繁榮策として置かうとする處がある。世間にはよくさういふ風に解釋されて居る傾向があるのは、實に飛んでもない謬見である。藝妓を置けば町は衰微するとも繁榮を助けやう道理は更にない、這麼譯の分らぬ話はない。藝妓を置いた結果は、折角先祖が粒々辛苦して築き上げた資産をぐらつかせ、勤勉の民を遊惰にし、質素の風は變じて奢侈に流れる、其土地の金は三越や白木に吸收せられ、酒を飲む、ビールを飲む、其他贅澤品裝飾に費す金は、皆其土地を肥す事なくして、原産地、大賣捌所へ行つてしまう、即ち藝妓の爲に土地の金が皆出て行くのに土地が繁榮しやう筈がないではないか。土地の繁榮は産業の發達より外にはない。或は斯ういふ事をいふ者がある、藝妓屋を置くと附近の町村から金が集つて來ると、なる程さういふ關係の土地もあるであらう、けれどもそれとても其集つた金は右から左、三越や酒の本場に行つてしまう。而かもそれは同士食ひである、サークルを少し大きくして考へれば先と同樣である事は勿論、附近は必ず疲弊してゐる筈である。のみならず其地が遊惰淫逸の風を感染せぬ事が出來やう筈がないではないか。

　然らば藝妓は之れを如何にすべきかといふ處に到著する。直に之れを滅す事は困難である。私の考では服裝に嚴重なる取締をなす事が、最も簡單に目的を達するであらうと思ふ卑しむべき商賣は卑しむべきものゝやうに普通人より醜い程度の服裝をなさしむるならば、今日の如き羨望の的となり、流行の源泉となる事もなく、普通人より汚い者を買ふといふ事は餘程躊躇するやうになるであらう。服裝の制限は半ば藝妓の生命を奪ふものである。次に音曲に取締をなす必要がある。三味線もさうであるが殊に太鼓の如きは遠く迄響いて誠に不都合である、あゝいふ樣な音響は室外に洩らさぬ樣取締るといふ事も必要な事である。

　尙一言附記すべきは宴會の改良である、日本料理の宴會には藝妓は必ず著き物になつてゐる。之れは實に不都合な事である。で私は西洋料理の宴會には出席するが、日本料理の宴會には出席せぬやうにしてゐる、日本料理の場合には豫め藝妓が出るかどうかを確めた上でなければ出席しない。私は平素學生に經濟の講義をして、藝妓が憎むべき經濟の敵である事を說きつゝある者として、藝妓に接するのは良心の許さない處であり、且つ講義に權威のなからん事を恐れて、實行してゐる位であるから、勿論大正博覽會などにて藝妓の技藝を公演する事には反對せざるを得ぬ。(談)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

恥を知らぬ日本人

大日本禁酒會長　安藤太郎

どうせ我等の主張が容易く容れられやうとは思はないけれども、今少し早くやり度かつた、開會以前であつたら、多少熟考の餘地を與へたかも知れぬ。今日ではいくらか手遲れの氣味があるが、併し是非やらねばならぬ運動である、今度惡かれなかつたにしても此次の時に考へさせる事になる。どうせ我等の戰ひは持久戰である、大正博覽會に限つた事はない年中我々の前に横つてある。我々は常に起つて戰はなければならぬ。殊に今度の問題の如きは外國人に對して實に耻しい事である。外務省あたりの連中は、外國人が來ると藝妓を出して歡待する、外國人はそれに對してどうも非常に面白かつた、愉快であつたとお世辭をいふものだから、それを聞いてそれ見た事か外國人でも喜んでゐるぢやないかといふ、これは實に大間違ひで、蔭ぢや皆惡口をいふて居るぢやないか、表向きは外交的辭令で饗應に對してさういふのは當然たが、蔭へ廻つて我々へいつでも困つたものと歎してゐるではないか、彼等は皆日本といふ國は何といふ道德の低い國だらうかと思つて歸る、全くの處醜業婦を出して客を歡待するといふ法は何處の國にもない。

私などは多少さういふ方面の消息に通じてゐる丈、外國人から受くる侮辱に堪へず、外務省の連中などに矢釜しくいふけれども、一向分らない。いつか亞米利加の艦隊が來た時に藝妓を出しては困るといふので、大使館へ行くやら何やら、大に骨を折つて、日比谷公園で青山學院や明治學院の生徒たちで歡迎した事があつたが、日本人が藝妓の樣な醜業婦を交際場裡に缺ぐ可からざる花の樣に心得てゐるのは實に困つたものだ。つい先達ても外務省で或る會合があつたが、其席上で、どうも紅裙が居なくちや寂しくていけない、何處かへ行かうぢやないかと發議したのは誰あらう、原内相であつた。

私は大に反對して、眞平御免だ、私は金輪際藝妓などの出る樣な席に出ないといふと、それは君の隨意さ、應無論隨意さ、と云つた樣な事で、とんと話にならない。

此間はまた斯ういふ事をいふ者があつた『廓清會は藝妓の事までやるから賛成が出來ない』といふから『それぢや、どうすればいゝのか』と尋ねると『いや女郎位なら』といふ。そこで私は、女郎と藝妓とどう違うか、少しも違やしない、或點に於ては却つてより以上に毒を流してゐる、女郎はまさか白晝公然買ひに行く者もないが、藝妓は大威張りで堂々と銀座街頭を濶歩してゐる、いや晝日中藝妓を擁して自働車を飛ばしてゐる、之れがどうして反對せずに居られやう、而も大正博覽會には醜業婦の技藝を公演せしめてゐるぢやないか、これがどうして反對せずに居られやう、といふてやつた位であつた。(談)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

リンコルンなきか

小石川區會議員　高崎介藏

佛蘭西の植物學者が、嘗て蠶の繭の樣な蛾を研究して、僅か二三匹亞米利加に持つて行つた。然かるにそれが四五十年後の今日は、或洲だけで一年四十萬弗、合衆國全土で二百三百萬の經費を要して此の蛾の退治をやつて居る、惡の成長發達する事は丁度此の蛾のやうなものである。

これも亞米利加の話であるが、或金持の娘が電燈線の下つて居るのを見て、之れに下つて舞踏をして見たら面白からうと考へて一寸下つて見たから堪らない、忽ち感電して悲鳴を揚げてぶつ倒れた。物音に驚いて驅けつけた母が娘を引起さうとして同じく感電して倒れた、智慧のある男が鉞で線を切斷して漸く引放す事が出來た。面白いと思つて一寸觸つた事から命を失ふ樣な事はいくらもある。藝妓問題は閑問題かも知れぬ、併し私はも少し日本國民の神經を鋭敏にしたいと思ふ、世の中には唯今の樣な例が決して鮮くないのである。

これは獨逸にあつた事である、或るドクトルが亞弗利加から狒々を連れて來て飼つて置いた、犬を一緒に置いたが餘りに濃厚な情に堪えず逃げてしまつた、然るに猫がよく彼に馴れた、狒々は猫を愛して掌に乘せて寸時もはなさない、遂に猫も濃厚な情に堪へず逃げんとした。狒々はどつこいと捕まへた。猫は爪を出して狒々を引掻いた、狒々は驚いて放すと又猫が逃げ出さうとする、狒々は又忽ち捕へて了つた、そして如何にも不審な顔をして猫の指を檢査し、なる程這麼爪があるのか、斯ういふ可愛いゝ猫に爪なんぞない方がいゝと考へたと見えて、其爪を悉く其鋭い齒で喰ひ切つて了つた。赤坂の萬龍と云へば日本の隅々迄全盛を唄はれた藝妓である、而も彼が藝妓屋に養はれて居る時は實家に交通が堅く絕たれて居つた、兄弟もあるのにそれ等と逢ふと里心を出すといふので行き來も出來なかつた。彼にして猶然である、娼妓も藝妓も、斯くして世の中に必要な者であるといふならば、そは猫の爪を食ひ切つた狒々のやうなものではないか。

我等は彼等を悄む者ではない、憫れむ者である、リンコルンが奴隷解放の爲めに戰つた樣に、我々は戰はねばならぬ。

ピーチャー、ストー夫人が或時唯一人の子を失つた、歎き悲しんでゐると、黑ん坊の婆が夫人を訪ねて來た、奥樣は子供が死んでも行先が分つてゐるからお目出度い、私は五人の子があるが五人とも奴隷に賣られ、何處に何うして居るやら分らない、貴女の子供は天國と行先がちやんと分つて居る、それ程樂しい事はない、私達は日曜日に教會へ行かんとしても行く事が出來ないと、云つた言葉がストー夫人の小説となつて、米國民を覺醒したのであつた。而してウイリヤムロイドガリソンの奮鬪が始まるのである。我國には一人のストー夫人なきか、ガリソンなきか、リンコルンなきか。（文責記者）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

何故藝妓が必要か

成女高等女學校長　宮田脩

藝妓が不必要といふ事は誰も知つて居る、そこで私は反對に藝妓の入用な譯を考へて見て、凡そ五箇條を得た。

男性が女性を牽き、女性が男性を牽くといふ事は爭ふべからざる本性である。此意味から家庭を作る迄の男女が互に話し合ふ必要が確にある。本能にも上等下等があつて、たゞ婦人を對手として其人と樂しく遊ぶといふのとさうでない人と二通りある、日本には昔から男女交際の道が開けて居なかつた。男子は男子、女子は女子と自然の性に逆らつて引劃かれてゐたのである。これが藝妓の起つた一因であらうと思ふ。

第二は結婚の不備である。日本の結婚は親の意志次第で、本人同志の意志などは殆んどどうでもいゝのである。殊に女子は自分の考へも及ばぬものを夫にせねばならぬ、けれども女子は穩かだから引込んでゐるが、男は自分の氣に入らぬものでは滿足せぬ、他に滿足を求めやうとする。次ぎにはまた道樂な人があつて、一人では滿足が出來ないといふ者がある家庭があるにも拘らず、變化を求めて、藝妓などに戯れやうとする、これが其第三因である。も一つは、藝妓を對手にするのは罪惡であるといふ事を考へない、道德觀念が鈍くて、茲に至る者がある。

又一方には藝妓を買ふといふ事は怪しからぬ事である。といふ事を充分知つて居り乍ら、若い内は仕方がないと云つて看過する習慣がある、これも亦藝妓の存在する一因である。

さて斯ういふ風に考へて來ると藝妓問題を取押へるのは容易ではない。幸にして政府の當路者が撤廢して呉れると譯もないのであるが、何分今日の政治家は國家の政治を待合で談合する始末であるから前途遼遠である、今日の樣な狀態では縱し法律を以て禁じても一般の民心がまだそこ迄進んでゐない、賭博が禁ぜられても續々捕へられる樣に、賣淫問題も同樣であらう。我等はどうしても進んで根本に力を注がなくてはならぬ。男女交際の道を開く、もつと淸らかに男女が集る事を工夫し實行するのも一の解決法である。教會の集りの如く淸らかに男女が一緒に遊び一緒に樂しむといふ事は最も必要な點である、も一つは靑年男女を解放して各々の自由意志によつて其の配偶者を選定するやうにさせなければならぬ。此點も藝妓問題解決の一方法である。娯樂機關の缺乏も亦藝妓の存在を促す一因である、娯樂が酒と女の外にないといふのは餘りに紳士として貧弱な事ではないか。

併し乍ら娯樂の機關が整つても、結婚がうまく行はれてももつと根本的に大切な問題は女子教育の一事である、希臘の雅典は實に燦爛たる文明を持つて居つたが羅馬の爲めに亡んだ、これは德川氏の滅亡と同じく賣淫婦の跋扈が其最大原因である。どうして雅典に藝妓のやうなものが跋扈したかとい

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ふと、當時の雅典の婦人は、着物を洗濯したり御飯を焚く丈で、何の教育もなかつたからである。日本の婦人も男子の好伴侶たる丈の識見と獨立し得る丈の技能がなくては、獨り男子の文化が進むとも、希臘の覆轍は免れぬ。（文責記者）

優等生の寫眞と藝妓の寫眞

日本女子大學幹事　堤茂太郎

藝妓の演藝を博覽會でやらせるなど丶、いふのは怪しからぬ事です。一體斯ういふ事は新聞紙が眞先に警告を與へなければならぬ事件であるのに、今日の新聞は却つて藝妓輩の提灯持をして居る、毎日藝妓の寫眞を掲げる、何處の何某がお披露目をしたの、誰それとの關係が切れたのと書いてゐる。斯ういふ有樣ですから女子教育の前途も遠いといはねばならぬ。私の學校では主義として優等生とか何とかいふ樣なものを設けないから、各新聞社から卒業の優等生の寫眞を載せたいなど丶申して來ても、一切出させぬ事になつてゐますが、よし假りに出させるにしましても、彼等はこれを一面や二面の奇麗な處に出さずに、やはり三面の如何はしい記事の中に而も、藝妓の寫眞と並べて掲げられるのですからね、彼等の眼中には新聞政策あるのみです。今度の問題なども一つ新聞社の助けを得るやうにしたいものですね、なあに新聞社の中にも同情して呉れる人はいくらもありますよ、是非御健闘を願つて、藝妓や娼妓のやうな類を、社會の表面から一掃したいものです。私共も及ばずながら驥尾に附して風教の爲めに戰いたいと思ひます。（談）

租税を廢して公權を停止せよ

内田魯庵

貸座敷業者、待合業者、藝娼妓、酌婦等の如き職業が存在するのは誠に止むを得ないが、國家として之れを正業と認許して租税を賦課するは道徳的では無い。夫故に是等の不道徳なる職業を營むものに對しては租税を免除する代りに、彼等の一切の公權を停止し、且公衆衛生及風紀の維持の必要上彼等を一地點に隔離して、其害毒をローカライズして了はねばならない。勿論斯の如き政策を行ふても、是等の不道徳的職業を剿滅する事は決して出來ないで、彼等は恰も飯の上の蠅の如きものであるが、國家として渠等の職業を認許して租税を徴收する事は決して道徳的では無い、假に一個人として考

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

へよ、其姉妹或は娘を藝妓或は娼妓として所謂左團扇に生活するは決して誇るべき事で無からう。況んや國家としては斯くの如き不道德的職業を營む者より租税を徴收して、國費に充てるを愈々恥ぢなければならない筈である。我等は先づ此種の租税を全廢して、同時に渠等の公權を停止する事を主張する。(太陽)

藝妓の濫用

法學博士 農學博士 新渡戸稲造

自分は先達の博覽會開會式に行つた、きれいな前掛をした女が幾らも居る、何だか分からなかつたが、後で聞けばあれが藝者で、その藝者が六百人も來て居たのだと云ふ、何のために藝者などをよんだのだらう、あれこそいらない事だと思つた。一體藝者と云ふものはお給仕をするものではない、唯私の宴會で歌舞を以て興を添へさすのみのものではあるまいか。

成程今日の日本人の有樣では、或は宴席に藝者をおく必要もあらう、なぜなれば日本人は話下手で座を面白く持つ事が出來ないからである、話し出すと所謂世間話、人の噂、惡口さなくば腕を扼するやうな政論、さては山本の大泥坊――などゝ云ふやうな極端な人身攻撃、若くは宗教の批評議論など一言に云つて見れば角張つた事ばかりである。何も西洋を擔ぐのではないが、西洋では交際場例へば晩餐會の席などでも宗教と政治の話は禁物となつて居る。その内にはどんな政見を有つて居るものがあるか分からないし、またどんな宗教を信じて居るものであるかもしれないから、人の感情を傷なうやうな事があつてはならぬと云ふのでこれを避ける。そして多くは文學、美術、音樂など誰にも差さわりのない話題を採る、だから圓滿に席が面白くゆけるのである、日本人は今のところ、そんな話をしようとしても話の種がない、實際話の種に乏しいのである、自分を初め殊に音樂の話なんか一般日本の男子は解からない故に今日ではまだ藝妓をして宴席を助けしむる必要があるのだらうとも思はれる。

とは云へこれを公開の席に出して給仕をさせるのはいらない事、餘計な事である、藝妓の濫用と云ひたい。

博覽會の餘興に藝妓を出す、これも不要の事だ、手踊を見せようと云ふのなら、何も藝者でなくとも、その道の達人を出せばいゝ、「成程うまい」と藝を見るのと、あれは金で自由になる女だと思つてその踊を見るのと見る者の感が異ふのは必然で、あの女はいゝ、あれは金で買へると思ふと、或は買つて見やうかとの感を起さしめ、即ち墮落の導火線となる。なほまた踊や舞は藝者などのやるべきものだとの念を深からしめ、一方には藝の墮落ともなるのである。

何れにしてもあまりに藝者を濫用し過るではあるまいか。

寄書

日本家庭廓清會の議

西內天行

何人か解らないのですが、此頃『廓清』を二部私に向けて贈られた方があります。私は夫を讀んで非常に感動してゐます。是非我が宮崎縣にも廓清會の支部を作りたいと思ひ、幹部諸氏の御來縣を祈りてやまないものでありますが。夫に就て私は諸氏に切に御賛成を願ひたき一事があります。

△

私は四十二年に高鍋人士の仲間入をしたものであつて、當地は安部磯雄師の親友であつた增野悅興氏が、日州敎化の策源地として居を据ゑられた處であります。私は此地に參りました時は、千七百戸の小農村なるに、四十七名の藝妓が居まして、實に私をして第一に驚かしめた事でありました。當時私は花田中佐の首唱になつた報德會の講師をも囑託されましたので、每月一回宛は各部落の例會に出演しまして、勤儉力行、節酒廢妓の急務を說きましたゝめ滿一ケ年も經ちました時には、警察署の調査によつて殆んど八分一の六名に減じたのであります。併しどうしても困難なる事は燒酎暴飮の弊を改めさせる事であつた。例會の開かれたる間は餘程節したやうであるが、町長の改選と共に町政の方針が一變し、餘り報德會などを勵行しないやうになつたので、町の輿論も一變するやうになり『西內君は不景氣の厄病神だ』と攻擊せられるやうになつたのです。併し其結果は今日も尙ほ餘り藝者の數を增さずにゐる事である。酒の輸入は多いやうであるが、藝者の數は八九名を出ない丈は感謝しなければならぬ。併し縣下全體としては燒酎を暴飮すること、飮食店の無數なる事、從つて所謂仲居の多數ある事等は、明かなる事實であつて、如何にして之を矯正すべきかといふことが、日夕頭腦を惱ませて居る問題であります。殊に農家の婦人が、茶飮茶碗で燒酎を暴飮する惡習の盛んなるを見ては、實に淚の種であつて、其外馬に本乘に跨つたり、甚しきに至つては立小便する婦人の多くを見るに至つては、言語に絕する有樣である。

△

以上の如き日州人士の家庭を、如何にして改善すべきかに就て、種々苦心して居る際に、乃ち昨年の春、日本聯合敎育會の席上にて奥田文相が一夫一婦主義の演說を試みて、都下の某々新聞などからは大に冷評されたやうであつた。私は其時この演說筆記を讀み、兎も角も之は面白い演說だと思つて靜かに喜んで居る內に、之が若し桂公なり、伊藤公なりの首相時代であつたならば、而して假に奥田氏を文相としたならば、斯くの如き演說も出來なかつたらう。併し四十二年日向に移住してから、中央の空氣に非常に遠く在りますから、

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大正宮廷の御家風を一夫一婦主義と仰ぎ、山本首相の家庭をも同様に信じて居る私には、この二つの背景があつたから奥田氏のあの演説も出來たものだと極めて愉快に感じたのであつた。若し私の大正宮廷なり、山本首相なりの家風に對する信念が誤解であつたならば御訂正を願ひたい。私は日本の家庭を改良するには聖旨の普及に俟つと共に、大正宮廷が若し
私の信ずるが如き家風であるならば、その大正宮廷を中心として、家庭廓清の運動を天下に及ぼし、滿天下の空氣をして廓清的に濃厚ならしむる事が、日本の國論を一定し、從つて社會の廓清を大成する中心問題なりとの聯想を懐かしむるに至つたのであります。

△

私は常に藝娼妓の全廢は、家庭の廓清に俟つもの多きを信ぜずには居られないのである。私は寧ろ家庭廓清が本源で藝娼廢止は其の末流である事を思はずには居られない。故に私は藝娼廢止の中心機關たる貴會幹部が、更に大に一面に於て家庭廓清の大運動をも抱擁するに至らんことを冀ふのである
今日の家庭から『酒』と『女』の勢力、乃ち酒色の二大魔力を驅逐する事は、國民教育上の最大問題であつて、一種の宗教的副事業の如き性質のものとせず、寧ろ滿天下の矯風事業たらしむ可き性質のものである事を信じたい。從つて私は貴會の事業をして國民的大運動たらしめたいと願ふて居る、されば今回の滿三年を期して現在の組織を更に積極的、抱擁的ならしめて貰ひたいと考へて居る。若し私の希望を一言陳ぶる事を許されるならば、島田會長は勿論、安部副會長に是非御贊成を願ひたい事がある、夫は第一、皇族の兩殿下を總裁として、皇族と會長との聯絡を取て頂きたい事である。而して記念會と共に發會式を擧げる事であります。第二には宮崎縣知事は組合教會員であるから知事夫妻を中心として、教育家、地方官、縣下有志者を抱擁して、家庭廓清會宮崎縣支部を設けて貰ひ、而して各縣に支部を設置して官民共同の國民的大運動たらしむる事である。第三には雜誌廓清に家庭改良の記事を豐富ならしめ、毎年各縣に廓清大會を開きて各縣官民の頭腦の開發と、國論の指導とに任じて貰ひたい事である。即ち筆と舌との二大武器を以て滿天下の空氣を改造する事であります。

愛國婦人會は最早一種の裝飾品に過ぎない。彼に代るべき生命ある國民的運動は、實に日本家庭廓清會の大運動にある事を信ずる。小生は幹部諸氏が斷じて之を行ひ、廓清的國論を一定するの捷徑に出でられんことを希望するものである
第四、宴會改良の模範的社交方法としては各小學の校友會の例に倣ひ、茶菓親睦を本位とし、廓清會員の家族的大親睦會を毎年一回位開催する事にして貰ひたい、從つて廓清會と學校とが自然聯絡するやうになると思ふ。少年部大人部の二部に分ち、演説なり隠し藝なりを持出して愉快に親睦することが如何に我が國の社交會に新鮮なる空氣を横溢せしむるに至るであらうかを思ふて壯快に堪ゆるものであります。

私は校友會に演説を頼まれて出演する毎に、小學校の校友

會程理想的な親睦會はないと考へた。之に大人會を加へて廓清的親睦の實を示し、以て宴會改良の活ける範たるに至らしめば、非常に愉快である事を想ふのであります。なほ進んでこは兩陛下の御賛成をも願ひたいと思ふのであるが若し各縣に支部が出來れば、自然に兩陛下の御賛同をも蒙るに至るのであらうと考へます。小生は益富君と倶に大道の醜業婦救濟に努力した事を懐ひ、而して其當時青年會館の講演婦人問題の出演者、島田、安部、山室の諸君子が皆打揃ふて賛會の中心人物たるを思ふ時、必らず小生の提議に對して滿腔の賛同あることを信じ、實に我國家庭改良の為め一道の光明を認むるものである。願くば愈々益々家庭廓清の為め御奮鬪あらん事を熱禱する次第であります。

文部省對基督教の問題

慶應義塾大學教授　向　軍　治

記者が該題旨を携へて氏の署名を乞ふべく訪れた時、既に先客があつた。氏は眼鏡越しに例の鋭い調子で記者に向ひ、

「君、斯ういふ問題があるが、どうだ」と語られたのは斯うである。

愛媛縣上浮穴郡久主小學校の一教員が、基督教徒であつて時々其生徒に基督教を吹込んで居た、勿論それは所定の課外時間で差支のない教場を使用した。處がそれが問題となつて二月十八日附で教員としては不適當であるといふ漠然たる理由の下に免職になつた。土地の人の留任運動なども起つたが遂に有志の盛んな送別會を受けて、子弟や父兄から惜まれて本人は上京し、青山學院へでも這入らうかと向氏に相談に來た、座の先客が高岡今平君といふのが其當人である。

斯ういふ不埒な事があるのを、君は何と思ふ。婦人の覺醒ばかりを圖つても、斯ういふ方面の廓清を怠つては何の効があらう、問題は僅に一地方に於ける一小學教員の事である、極めて些々たる事件の様であるが、實はこれは代表的事件で文部省對宗教の問題である、國民教育の根底に觸れた大問題である。我等基督教徒の正に立て戰はねばならぬ問題である。文部省の役人どもの譯の分らぬには實に困つたものである。彼等は僞忠君僞愛國の奴隷的教育あるを知つて、眞の忠君愛國の道を知らないから世の中は滔々として堕つてしまふ、亞米利加に行つてゐる日本の勞働者などの野卑下劣な事は到底話しにもならぬ、あれでは日本人が排斥せられるのは當然である。我等は根本に遡つて人間を作る教育をしなければ駄目である。目下全國の英語教員會議があるが、私は彼等に諸君がたゞ鸚鵡のやうに外國人の口真似ばかりして、それを受賣して居るやうではいけない、人間をお作りなさい、と云つてやつたら、相變らず酷い事をいふと笑つて居つた。

大正博で藝妓が踊り出す世の中は、實に困つたものだね。

氣焔例によつて虹の如く、說き去り說き來つて[illegible]。

「敬」の文字に就いて

東京歯科醫學專門學校講師　水津謙介

廓清會の機關紙『廓清』の主張と主義とを讀むと自から自分も廓清せられるやうな氣持がする、これは自分が廓清と云ふ事が非常に好きで何も彼も社會の不利になる、國家に有益でないとは、皆どし〱廓清したいと云ふのが、是亦自分の主張である、處でこの廓清會の仕事が自分の思ふ程の廣義でないとはよく知つて居るけれども、自分の廓清的思想の中に確かに含まれて居るからには、大にこの會の主張主義に賛成をする次第である。唯自分とは廓清するに就ての方法手段は全く異つて居るやうだが、方法手段は幾つもあるし、又何の方法を採らうが、其れは當事者の自由であるから、自分は強ひて廓清會に向つて自分の方法を採用せよとはいはぬ。

自分は約十二三年前より廓清的行動を取り出して今日に至る、方法は廣義の敎育を唯一の廓清の方法手段として或は學校敎育、或は新聞に雜誌に筆を走らす毎に常に、この意味に於て地方と云はず中央と云はず行つて來て居るのであるけれども、自分は唯單獨に之をなして居るのであるから、左樣世間から兎や角の批評を受けねば賞讃も受けては居ない、而して自分の廓清に努めて居るのは、途中を歩いてる時でも電車に乘つて居る時でも、買物をする時でも、料理屋の宴會に臨む時でも、活動寫眞を見る時でも、彼の警察が人民の世話をやくやうに權威でするのでなく同情と親切とに依つてやるのみで、貴賤貧富老幼婦女を問はない、會社へでも官吏にでも口で言ふ事の出來ない場合には書簡を發するのである。それに就て非常に自分が成功したと喜んだ一事がある、過去に屬するから一つ話して見たいが姓名だけは表はす事を止やう。

△

時は昨年七八月の頃であつたと思ふ、自分の恩師江原素六先生の命によつて某雜誌の編輯を引受けて居た或日四谷方面に親戚を訪ふた。すると近傍に鐵道院參事で工學士某の寓居がある、所が其工學士某は五歲を頭に三人の子供があるに、細君を離緣せざるべからざることとなつたさうで、其代りとして主人自ら出勤して不在の時は女中二人を子供の監督兼家庭の取締に命じてあつたのである。それで近所近邊では細君離別以來其女中共が五歲の女兒を躾けるのか苦しめるのか主人の出勤後になると、毎日五歲の兒の泣聲が甚しくする夕方主人が歸宅すると止めるとの評判で、可憐なる子供なり、何とかして子煩惱の工學士某に通じたしとは誰れも彼も云ふものの、更に通ずるものは一人もない。二三ケ月も經つたと云ふ時、親戚にては何とかして之れを主人に報ずべき術なきかとのことに、自分は直ちに其人の妻を離別したる理由狀況より同主人の性行、留守中の狀況を取調べしを一つの新聞雜報式に認め、更に主人宛一通の手紙を附し一週間以內に於て

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

家庭の改善に盡さゝれば、この儘を通信すべき旨書し尚其の間を監視するものなりとの事を附記し、子供は國家の子供にして又社會の子供なり、故にこの意味に於て勸告するものなり、決して脅喝取財を目的とするものに非ざれば匿名を以てすることを許せと書し郵送したるに、其後親戚にも問ひ合はすれば女中は放逐せられ子供の悲鳴も止みたりとの近傍の評判であるとの事、大に其成功を喜びたる事もある。

其他電燈會社だの瓦斯會社等へも充分猛烈に忠告した事もある、電氣局長にも警察署長にでもどし／＼やる。斯樣のやり方が自分の方法で廓清を行つた例は未だ幾つもある。

△

本問題の『敬』の字に就ても自分は邦人一般の多少廓清的思想の上に音響と波動とを與へて見たいと思ふ。

敬の文字の意義としては誰れもよく熟知して居ることではあるが、其熟知して居る丈に非常に交際の上に圓滿を缺く恐れはないか、人を尊敬せよ、長上を尊敬せよなどゝの教訓のために他人に對してよく語りよく交るといふ事が缺ける場合が多くはないか、或は途中多少地位階級は異つて居るにしても、先方が挨拶をしないから自分の方でやらぬとか、或は知人ではあるが自分の方は身分がよいから先方から敬禮でもすれば、こちらもする、しなければ自分の方からはしないと云ふやうな心的狀態が見える、又電車汽車のやうなものに乘つた時でも、却々傍の人などに話もしない、話どころか何等の挨拶もしない、お互に腕を張り眼をくる／＼さして居る位だ、これは恐らく日本人の多數に見る所だらうと思ふ。

それにつけて何せ日本人はかやうな眞似をするかと色々研究推理した結果自分の頭の中に『敬』の字の誤用だといふことが明確に浮かんだのである。

併し船に乘ると人間の本性を表はして、出帆と同時に危險といふことを思出すと見えて、君はどこへ上陸なさるかなどを冒頭として懇意にもなるのであるが、これは全く陸上の場合とは心的狀態が變つて居るからである。けれども陸上に於ける無愛想の現象は全く『敬』を受けるものは上級者だとの感念から格段な地位階級の差を別として公衆の中でツンと濟まして居るものが大多數である。

△

要するにこれは皆『敬』の字を誤解して起る各人の心的狀態ではあるまいか、犬のやうな下等動物でも尾を振つたり匂を嗅いだりするではないか、然るに自稱萬物の靈と云ふ人間が、假令公處の中であらうが、汽車電車の中だからといふて知人に挨拶をしないといふことは甚だ以て悖德的の行ではあるまいか。もしかやうな心的狀態が各人に表はれるとすれば、敬の字に就て教育者は大に注意しなければならぬことだが、これが社交の上に影響を來すであらうと考へる、已れに敬意を表しさうなものだなあと云ふ自惚根性を取去つて仕舞ふやうに小學教育から初てやつて『敬』の字を誤用しないやうに勉める事は肝要であらう。

『敬』の文字の正當なる理解は、即ち自他の人格の尊重である。人格の尊重は、同時に不道德と對立する事を許さぬ、茲に至つて『敬』の文字も亦廓清と交渉を有するのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

家庭

現代の女子は如何にして健康を保持すべきか

東京女子醫學專門學校長　吉岡彌生

今日の女子程難局に遭遇して居る者はないと思ひます、從來の女子は家庭内に跼蹐して居ればよかつた。寺小屋流、女大學式の母親に養成された諸孃が、戰勝國とか一等國とか持て囃される世に處して行くのは、誠に困難な事であります。

今日ではまだ女子教育の方針が確立して居らぬ、或方面には女子の高等教育に疑ひを有つて居る、職業教育も如何にしたらよいか當局者も教育家も確な見解をもつては居らぬ。されば今日の女子は、どうしたら女子の本分を盡さるゝかを充分に會得する事が出來ませぬ、良妻賢母にしても昔通りではもういけない。妻は自分の夫が世に處して如何なる事をなしつゝあるかも知らぬでいゝ時代とは違ふ、夫の後援となり相談對手とならねばならぬ、それには社會の事情に通ずる必要がある、母としても亦慈愛を灑ぐのみに止らず、初、中等教育時代にも、或は婚嫁して後迄も適當に教養指導して行く丈の識見腦力がなくてはなりませぬ。

斯うなつて參りますと過渡時代の女子は一層難關にあるものといふ事が分ります。自分自身は舊式の教養に人となつて世に處し夫や子供に處するには新時代の智能を要する、從つて其精神は餘程健全に、犧牲的時代の苦境に抵抗して行くことがなくてはならぬといふ事になります

それが私共の問題になるのであります。

精神と身體とは相俟つもので、醫師はたゞ肉を醫するものと思ふのは誤りで御座います。靈肉相俟つて始めて健全なる事を得る、子供を教育するにも、いづれにも偏重してはなりませぬ。

○

私は幾分女子教育といふ事に心を傾けて居る者でありますが、近來神經衰弱といふ語を學生の間によく聞きます。此原因は一槪に云へば過渡時代の產物であるかも知れぬ、精神の潮流が一定の方向に正しく流るゝ事が出來ぬ、女大學から一躍して燦爛たる科學の世界に入らんとする混亂の時代であるから、精神過勞の必然の結果のやうであります。けれども實はあまり勉强などしない人に神經衰弱が多い、一定の主義方針を立てゝ活らき、又休みもするといふ人は神經衰弱にはならぬ。一生懸命勉强しても入學が出來た時とか、久し振りで鄕里の兩親に見えた時程愉快な事はない、お裁縫にしてもこれを立派に仕上やうといふ希望は非常な慰安になります。私なども大患を受持つて夜の目も寢ず看護しても、人の思ふ程苦にならぬ、といふのは一定の目的を有つて行つてるからで一切れ一切れに非常な愉快があります。それが精神の糧になるからです、一日非常に働いて居つても一夜深く眠れば疲れは治る、希望は如何に働いても精神衰弱に陷れない處のものでございます。

然るに一般に思想の固まらない若い人

達は、今朝は大雪だから休まうかどうしやうか、今度の試驗は受けやうか受けまいか、あの人があゝいふ顏をしたから、怒つたんぢやあるまいか、何某さんは私の事を誤解して怨んでやしないだらうかと希望もなく目的もない事に煩悶する、これが最も精神衰弱に陷らしむる原因であります。此の無希望無目的の煩悶に抵抗して靈肉の健在を冀ふには精神の修養といふ事が必要になつて來る、相當の年齡に達すれば物事の理非辨別はあるから、たゞ正義といふ銘刀で萬事を裁斷すばいゝ、さうすれば如何なる事でも直に解決が着きます。今日はお天氣だから上野に參りませうと友達に誘はれる、行きたいけれども縫ひかけた着物が仕上らないと困る、お友達が氣を惡くしないだらうかと、半日も心配したりする。實に精神の濫費で、これでは精神の休まる時がありませぬ。お友達に打明けて卽座に決するといふ事は大切な事であります。

○

お姑に對してもさうである、分らない事はどうしたらよいか相談すればよい、敎へを仰げば煩悶は立所に消て了ふ、それをあゝしたらお姑さんに憤られやうの斯うしたら笑はれやうのと、解決されない煩悶をする、嫁して他の家庭に這入つたら充分其家庭に副ふ樣に研究するといふ事は希望がある、友達と交際をするにも、物事を處するにも、希望を以て働けば彼岸に達した時に精神の營養素となる人を妬む事もない人を怨む事もない、一定の目的を定めて精神を用ゆればそれが神經衰弱にも罹らず鍛錬にもなる。

精神を用ひ過ぎたからとて病氣にならぬやうに、身體を使ひ過ぎたとても病氣にはならぬ。無目的の煩悶がいつでも神經衰弱に導く原因であるから、諸孃さんは少しも顧慮する處なく、勉強し、活動していゝのである、否今日の女子の一日の仕事は餘りに少い、少くとも今日迄の女子の三倍は働かねばならぬ。うんと働いてうんとお休みなさい、强く働くと深く眠れる。胃の働きもさうです、食物が口から腹に入る迄四時間かゝりまして、各臟器にも一定の休みを與へるといふ事は肝要な事です、おやつなどは甚よくない習慣であります、晩の八九時頃ならまだ少しは宜敷うございます、食物は必ず最初に充分に嚙むといふ事を忘れてはなりませぬ。

○

それでは腦や身體を三倍も使用して、食物は今迄通りでいゝかといふと、やはり三倍の滋養分を取る必要がある。私のいふのは分量の意味ではありませぬ、たゞ無暗と御飯を多くたべたとてそれでよい事はない、蛋白質に含水炭素、脂肪、鹽分、水の五成分が相當の比例を持つてゐないといけませぬ、此頃は菜食論者などがありますが、私は歯牙にかけませぬ御飯にお芋は含水炭素を餘計にもつて居りますが、それでは蛋白質に脂肪が足らぬ筈です、脂肪や蛋白質を取るには經濟が許さぬといふ人があるかも知れませぬが、何も卵や牛乳に限つた事はない、野菜にも豚にも含水炭素も蛋白質も、脂肪もある、魚のあらも結構である、見えさへ張らなけりやいくらも方法はある、野菜をヘットであげても脂肪を取る事は出來ます。（文責在記者）

雜報

自由廢業防禦會起る

――洲崎遊廓の娼妓後援會――

洲崎遊廓では昨年來自由廢業者の續出するより鳩首協議の結果、之が防禦策として愈洲崎遊廓娼妓後援會なるものを設けた。而して樓主中より公平無私らしき人を惣代とし自廢者など出でし場合之が交渉の任に當らしめ、且毎月慰安會をも催す由娼妓全體に申聞かせ、本年早々第一回慰安會を催した。

當日檢査場の大廣間は廓内千八百人の娼妓、藝妓、樓主、雇人等を以て滿され藝妓のはやし踊、説教、浪花節、蓄音器などあつて、檢査係の先生まで蓄音器の説明をする、殊に目立つたのは武部新作と云ふ人の説教であつた。

『皆さんは親孝行のためにこの廓に出世奉公に參り、身分不相應の大金を借りて何とも思はず、少し位の病氣を苦にして自廢せんと救世軍などに手紙を出しては親不孝この上ないものであります。皆さんが自廢すれば、親は財産押になる、まかり違へば詐欺になる、懲役になる、親を苦しめるのが宜しいか、親孝行のために廓御殿で出世奉公が宜しきか。救世軍の「廢業の勸め」が病院に澤山はいつて居るさうだが、持つてをる人は、入院患者は看護婦に、その他の人はお婆さんにお出しなさい、御褒美を上げます。救世軍などの手にかゝり自廢すれば、救世軍に引込められ、外國にでも賣られゝば二度と親の顏を見る事は出來ません。救世軍などでも利益なくて皆さんの世話をする筈はないのであります、外國などに賣られる淫賣婦などは、皆こんな話よりなるのだと云ひます。外國にでも賣られゝば今の皆さんの苦勞より何百倍か分りません皆さんがよく辛抱する故、今回は後援會なるものが出來て、入院中は毎週見舞もする、日用品も不自由なく差入もする、月々慰安會も開く、殊に入院中の費用の如きは今年より御部屋の持出しにて何日病氣にて入院しても借金が増す筈もなく張店も、二時迄だつたのが一時までになり、皆さんにとりて非常に慈悲深き取扱ではありませんか。』

いかに屠蘇機嫌とは云へあまりに子供だましが過ぎるではないか。一擧手一投足自己の利益にのみ動いて居る彼等自身の心より推して、私なき救世軍の援助をもなほ「利益なしには世話をする筈はない」と云ふは寧ろ憫れむべきである。且救世軍は外國に賣られんとするものを救ひこそすれ「外國に賣る」などゝは目をむいて云へる言葉でない。

要するに彼等は憐れむべき娼妓の無智なるにつけ込み、自己の利益を保護するために如何なる嘘も僞も口から出まかせに云ふ、以て其娼妓のために盡すの誠意なきを知る事が出來る。入院費用の如き樓主の負擔となつた一事はいさゝか意を得たるが如き觀あるも、實はこれ口約に過ぎずして、彼等の證書は依然として存在して居る。

なほ當日の馳走は蜜柑五つビスケット一袋(三錢位)うどんかけ一杯であつたさ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

うである。昔エサウは一椀の食物のために家督の權を賣つたが、洲崎の娼妓はうどんかけ一椀には恐れず本年になり自廢者五名を出して居る。

* * * * *

さて「後援會設立の趣旨」なるものを見るに左の如くである。

後援會設立趣旨

纎弱ノ身ヲ以テ一家ノ危急ヲ救ハントシ挺身父母ノ膝下ヲ離レ遠ク山河ヲ隔テ異郷ニ來リテ娼妓ノ業ニ就事ス其志健氣ニシテ其情ノ悲惨ナル誰レカ同情セザラン

吾人茲ニ相計リテ不幸ナル娼妓ニ同情ノ意ヲ表センガ爲メ本會ヲ組織シ以テ之レガ後援保護者タラントス故ニ能ク年限ヲ了ヘ無事業ヲ歴スル者ハ之レヲ賀シ或ハ病氣死亡等不時ノ災厄ニ罹ル者ハ及ブ限リノ扶助ヲ爲シ或ハ親戚故舊ナキ者ハ婚嫁ノ媒介者タルヲ惜マザラン若夫レ身後ノ處置ニ對シ訴フルニ所ナキ場合ハ本會ニ其由ヲ申出レバ誓テ救濟ノ途ヲ求メ善後ノ策ヲ講セン一言ヲ前提シテ茲ニ本會ノ趣旨ヲ明カニスト云爾

而して發起人の重なるものは廓内の名譽職梅川、梶野、武部等にして。而かも梶野樓主は區會議員である。若しそれ彼等にして眞に其「趣旨」に見るが如きの同情と涙とあらんには、彼等は正に其營業を繼續するに忍びない筈である。然るにその策に出でずして、否出でざるのみか彼等は更に進んでこれが引留め策を講じて居るのである。

之を以て見ても彼等は娼妓に同情するが故にこの後援會を設けたるにあらずして、自由廢業を恐るゝのみ、自由廢業より來る自己の損害を恐るゝのみ、即ち自己の利益を保護せんがために後援會を設立したのである、名のみ娼妓の後援會にして實は自己の後援會である。

現に去月二十日勢州樓の娼妓可祝、末松の兩人が後援會に駈込み「勢州樓の樓主が張見世時間の午前二時を同二時半迄に延長した爲め娼妓の苦痛この上なき事情を訴へ自由廢業の手續に及ばんとした時の如き、同會の人々はこれを宥めて甚だ穩ならぬ事であるから他に住替せよと勸告した。

又三月八日の事であつた、辨天町梶野樓の娼妓榮、相生の兩名が後援會に賴つて自廢せんとしたが、後援會では矢張これを援けなかつた、而かもこれを樓主に引渡してしまつたのである。これを見ても彼等は娼妓に後援をなすに非ずして、其實樓主の後援會なる事が知らるゝ。

最近に於て一人の目見え娼妓は廓内を拔け出し救世軍に投せんとしたところが土手の車夫は其服裝を見てそれとさとり早速これを樓主の許に引戻した。その時樓主は車夫に向つて「あれは目見え中だから約束の二圓はやれない」と云つた、この對話を聞いた目見え娼妓はこゝにはじめて彼等の間の約定を知つた。即ち樓主は土手の車夫にして自廢娼妓を引戻して來たものには二圓を與ふとの契約をしてるのである。斯くあらゆる手段を以て自廢を防がんとして居る、されど自廢者は絶えない。又以て彼等の境遇の如何を想像するに足る。

尙一言すべきは、如何なる場合にも最初の前借金以上に借金を増さない樣にしてやる事になつた事である。之は一見極めて娼妓を優待したもの丶樣であるが、實は底には底がある、從來我々に「借金を返す爲に娼妓になつたのに、借金があべこべに殖へて居るのだから、之れでは返すことはおいて、一日長く居れば一日たけ餘計に樓主側に御迷惑になるのだから、廢業させるのはこれは却つて樓主側に親切な仕方だと思ふ。まあ喜んで下さい」など丶救世軍の救濟係にやり込められてグウの音も出せず、いつも此言葉に弱り切つて居るので、さてこそ此弱點を除かんと企てたのである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY